

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年3月17日 (2016.3.17)

【公表番号】特表2013-515773(P2013-515773A)

【公表日】平成25年5月9日 (2013.5.9)

【年通号数】公開・登録公報2013-022

【出願番号】特願2012-547105(P2012-547105)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/25 (2006.01)

A 6 1 K 8/29 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

A 6 1 Q 1/00 (2006.01)

A 6 1 K 8/891 (2006.01)

A 6 1 K 8/894 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 8/25

A 6 1 K 8/29

A 6 1 Q 19/00

A 6 1 Q 1/00

A 6 1 K 8/891

A 6 1 K 8/894

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年1月21日 (2016.1.21)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 6 】

[0036]本発明は、( i ) 0 より大きい粒子の全有効流体吸収能力 ( T A F A C P ) の値を有する粒子状材料；並びに ( i i ) 非揮発性成分及び揮発性成分を含む流体相；を含む組成物に関する。この組成物は、望ましくは 0 より大きく約 8 . 0 未満の範囲の T A F A C P に対する全非揮発分含量 ( N V C ) の重量比 R を有する。本発明は更に、( i ) 0 より大きい粒子の全有効流体吸収能力 ( T A F A C P ) の値を有する粒子状材料；並びに ( i i ) 非揮発性成分及び揮発性成分を含む流体相；を含む組成物の製造方法であって、得られる組成物が 0 より大きく約 8 . 0 未満の範囲の T A F A C P に対する全非揮発分含量 ( N V C ) の重量比 R を有する上記方法に関する。本発明は更に、( i ) 0 より大きい粒子の全有効流体吸収能力 ( T A F A C P ) の値を有する粒子状材料；並びに ( i i ) 非揮発性成分及び揮発性成分を含む流体相；を含む被覆又は膜を支持体上に形成する方法に関する。本発明は更に、皮膚のような支持体上の開示されている組成物を含む、被覆又は膜、被覆支持体、及び多層物品に関する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 0 】

[0055]与えられた組成物中の非揮発性成分の量は、望ましくは 0 より大きく約 8 . 0 未

満の範囲の T A F A C P に対する全非揮発分含量 ( N V C ) の重量比 R を有する得られる組成物を与えるのに十分なものである。幾つかの代表的な態様においては、R は約 0.5 ~ 約 7.4 の範囲である。他の代表的な態様においては、R は約 3.0 ~ 約 6.0 の範囲である。与えられた組成物に関して選択される成分によって、R は、得られる組成物が膜 / 被覆として 支持体 上に (例えば皮膚上に) 適用した際に粗い上表面、所望の程度の透明性、及び所望の程度の隠蔽性を有する膜を生成する限りにおいて、約 0.5 ~ 約 7.4 の間の任意の値 (例えば、0.5、0.6、0.7・・・7.1、7.2、7.3、及び 7.4) であってよい。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

2. 膜又は被覆:

[0065] 本発明の組成物はまた、皮膚のような 支持体 上の膜又は被覆として存在させることもできる。通常は、本発明の与えられた組成物を膜の形態で 支持体 (例えば皮膚) 上に適用した後、揮発性成分の少なくとも一部を組成物から蒸発させて、図 2 に示す構造を有する膜を残留させる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0060

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0060】

[0066] 図 2 に示すように、代表的な膜 20 は、ビヒクルマトリクス 21 (例えば流体相) を、その中に分散している粒子状材料 22 と共に含む。代表的な膜 20 はまた粗い上表面 24 を有し、これによって上表面 24 において相当量の光散乱を与える。通常は、代表的な膜 20 は、上表面 24 の表面形状を考えると、存在していても非常に僅かな膜内光散乱しか示さない。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0061

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0061】

[0067] 図 2 に示すように、上表面 24 は、最外側の粗い表面 (即ち上表面 24) に沿って 1 以上のより低い表面の点 26、及び最外側の粗い表面 (即ち上表面 24) に沿って 1 以上のより高い表面の点 27 を有し、ここで 1 以上のより低い表面の点 26 は、少なくとも約 0.1  $\mu\text{m}$ 、通常は約 0.1 ~ 約 70  $\mu\text{m}$  の距離 d だけ z 方向 (即ち、代表的な膜 20 がその上に配置される 支持体 に対して垂直の方向) において 1 以上のより高い表面の点 27 から離隔している。更に、2 以上のより低い表面の点の間に広がる上表面 24 の部分は、約 45° より大きく (又は約 90° より大きく、又は約 135° より大きく)、約 180° 以上の大きさである円弧角を有する円弧形状を示してよい。より低い表面の点 26a とより低い表面の点 26b との間に示される上表面 28 の部分のようなかかるより高い表面の部分は、距離 1 内で 180° 以上の大きさの円弧角を示し、より低い表面の点 26a とより低い表面の点 26b との間で x 方向に広がっている。通常は、距離 1 は約 20  $\mu\text{m}$  未満、通常は約 20 ~ 約 1  $\mu\text{m}$  である。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 6 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 6 6 】

[0072] 上記記載の表面粗さを有することに加えて、代表的な膜 2 0 は所望の程度の透明性を有する。望ましくは、代表的な膜 2 0 は、代表的な膜 2 0 が約 2 0 0  $\mu\text{m}$  以下の膜厚さを有する場合であっても、代表的な膜 2 0 の下に配置される支持体表面（例えば皮膚表面）の色及び調子を目視観察することを可能にする所望の程度の透明性を有する。例えば、代表的な膜 2 0 を約 1 0 0  $\mu\text{m}$  以下の膜厚さで皮膚上に被覆した場合、代表的な膜 2 0 の透明性によって、代表的な膜 2 0 を通して皮膚の色及び調子を目視観察することが可能である。更に、代表的な膜 2 0 の透明性及び組成は、代表的な膜 2 0 を通して皮膚の外観を変化させない（即ち、代表的な膜 2 0 で被覆又は処置した皮膚は処置していない皮膚と実質的に同じように見える）。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 6 7

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 6 7 】

[0073] 上記記載の表面粗さのために、代表的な膜 2 0 はまた、代表的な膜 2 0 が約 1  $\mu\text{m}$  程度の薄い膜厚さを有する場合であっても、代表的な膜 2 0 の下に配置される支持体表面（例えば皮膚表面）における表面の欠陥を隠蔽する所望の程度の隠蔽能力を有する。開示されている膜の優れた隠蔽性は、少なくとも部分的に、膜内光散乱に代わる代表的な膜 2 0 の大きな表面光散乱の結果であると考えられる。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 6 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 6 8 】

I I . 組成物、被覆、及び被覆支持体の製造方法：

[0074] 本発明は更に、表面の欠陥を隠蔽することができる組成物のような化粧品として用いるのに好適な組成物の製造方法に関する。1つの代表的な態様においては、組成物の製造方法は、( i ) 0 より大きい T A F A C P 値を有する上記記載の粒子状材料、及び ( i i ) 上記記載の流体相；を含む混合物を形成することを含み、得られる組成物は、0 より大きく約 8 . 0 未満の T A F A C P に対する全非揮発分含量 ( N V C ) の重量比 R を有する。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 7 2

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 7 2 】

[0078] 本発明はまた、被覆を形成する方法、並びに被覆支持体及び多層物品を形成する方法にも関する。1つの代表的な態様においては、上記記載の組成物を支持体上に適用することを含む被覆を形成する方法を開示する。得られる被覆支持体は、上記記載の懸濁液又は膜で少なくとも部分的に被覆されている支持体を含む。被覆を形成する方法には、組成物を適用する前に支持体を予備処置（例えば洗浄）することなど（しかしながらこれらに限定されない）の 1 以上の工程を更に含ませることができる。

【誤訳訂正 1 0】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0073

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0073】

[0079]被覆支持体又は多層物品を形成する方法には、1以上の更なるプロセス工程を更に含ませることができる。好適な更なるプロセス工程としては、容器から展開可能/被覆可能な組成物を取り出すこと、約200 $\mu$ m未満の所望の膜厚さを有する組成物の膜が形成されるように組成物を支持体上に展開すること、及び上記に記載の工程のいずれかを繰り返すことが挙げられるが、これらに限定されない。

【誤訳訂正11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0074

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0074】

III. 用途/使用:

[0080]上記で議論したように、本発明の組成物を用いて支持体上に被覆を形成することができる。好適な支持体としては、支持体表面の欠陥又は欠点は望ましく隠されるが、支持体表面の色及び調子が観察されることがなお必要であるものが挙げられる。かかる支持体としては、皮膚支持体(例えば皮膚)、ケラチン支持体(例えば毛髪、爪等)、及び更には非生物支持体が挙げられるが、これらに限定されない。1つの代表的な態様においては、本発明の組成物は、得られる化粧処置を通して自然な皮膚の色及び調子を示しながら、皮膚の欠陥を隠蔽するように人間の皮膚の上に化粧処置を形成するために用いる。本組成物は、毎日の皮膚の処置のために用いることができる。